

若宮小だより 特別号

令和2年12月18日
若宮小学校

今年度は「全国学力・学習状況調査」は中止となりましたが、結果を活かし今後の改善を図っていくために、学校としての主な課題とその改善策などを考えました。合わせて報告させていただきます。

国語科の結果と改善策

（条件）

- 「メモ①」から「メモ③」までのの中から、伝えたいインスタント食品のよさを取り上げて書くこと。なお、取り上げるよさは一つでも二つ以上でもよい。
- 実際に発表をしているような言葉づかいにすること。
- 四十文字以上、六十文字以内にまとめて書くこと。

※左の原簿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
※の印から書きましょう。どちらの行を変えないで、続けて書きましょう。

ぼくが、みなさんに伝えたいインスタント食品のよさは、

三 青木さんは、取材を通して分かったことをもとに、インスタント食品のよさについて発表をします。あなたが青木さんなら、どのように話しますか。次の「発表の様子」の□に入る内容を、あとの条件に合わせて書きましょう。

【発表の様子】

今、身の回りには、たくさんインスタント食品があり、ぼくの家でも食べる
ことがあります。ぼくは、「簡単」、「おいしい」というところがインスタント食品の
よさだと思っていましたが、それ以外にも、もっとよさがあるのではないかと
思いました。そこで、身近な人に取材をしてみたところ、いろいろなよさが
見つかりました。

ぼくが、みなさんに伝えたいインスタント食品のよさは、

みなさんは、どのようなところがよさだと思いますか。

自分の意見を簡単にまとめたり、文章に合ったものを選択したりする問題はできていましたが、文章から情報を収集し、他と比較した上で、自分の考えをまとめるような問題への対処が難しかったです。特に上の問題のような、記述にいくつかの条件が加わると正答率が低くなります。同じような問題について国語科の授業でも取り上げていきたいと考えております

算数科の結果と改善策

…「150cmの1.3倍」に当たる長さの求め方や面積の単位や求め方について選択したり、短答記述したりする問題は、正答率が80%を超えており、比較的できていると思います。また、立体の問題では、三角柱の底面や側面に貼る紙の枚数を求めたり、四角柱の性質を基に示されたかけ算の式の意味を短答記述したりする問題も高い正答率でした。

しかし、直径や円周、円周率の関係を理解して、回答する問題の正答率は低かったです。また、「1/4Lの図を直すわけ」を考えたり、「0.75+0.9」についてある数のいくつかを考えて説明したりする問題、示されたグラフの中から、問題文にあったものを選び、わけを記述する問題の正答率が非常に低かったです。

(2) たくまさんたちは、ヘチマの成長の様子について知りたいと思い、次のように、ヘチマのくきの長さをグラフに表し、話し合っています。

くきの長さは、9月1日が、いちばん長いですね。くきは、8月1日から9月1日までが、いちばんのびたということかな。

本当にそうかな。くきは、7月1日から8月1日までが、いちばんのびたのではないだろうか。1か月間にのびたくきの長さがわかるように、グラフに表しましょう。

あやねさんは、上のグラフを見て、まず、6月1日から7月1日までののびたくきの長さを、下のよう求めました。

【あやねさんの考え】

6月1日から7月1日までののびたくきの長さは、 $120 - 15 = 105$ で、105cmです。

あやねさんは、右のように、1か月間にのびたくきの長さをグラフに表しています。

【あやねさんの考え】をもちに、7月1日から8月1日までと、8月1日から9月1日までののびたくきの長さも求めて、上のグラフを完成させると、どのようなグラフになりますか。

下の1から3までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、言葉や式を使って書きましょう。

1 1か月間にのびたくきの長さ

2 1か月間にのびたくきの長さ

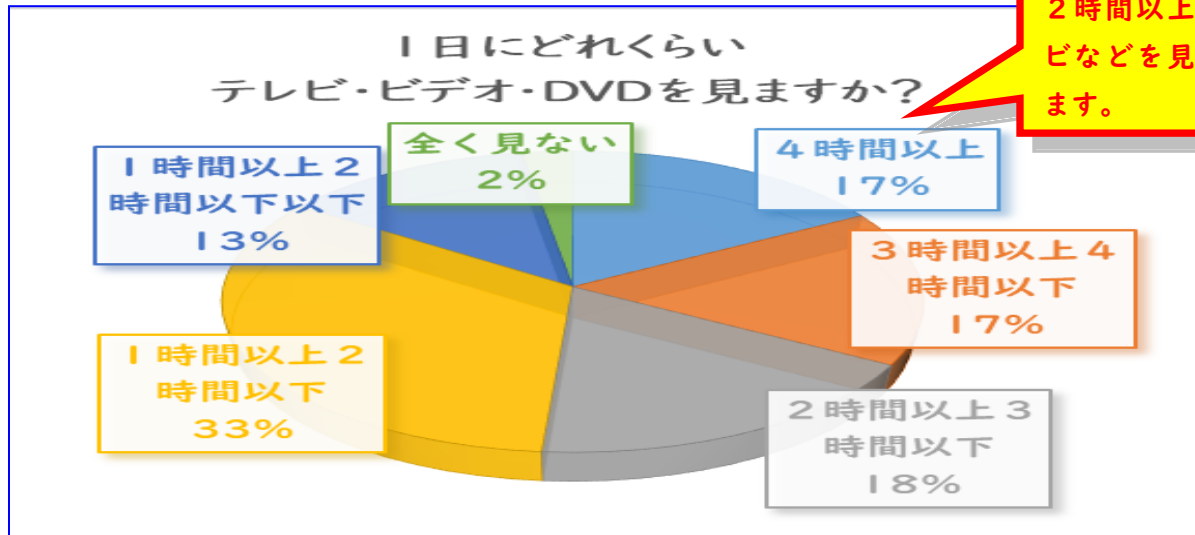
3 1か月間にのびたくきの長さ

特に、選択した理由を様々な方法で説明していく記述式問題が苦手であるという結果でした。

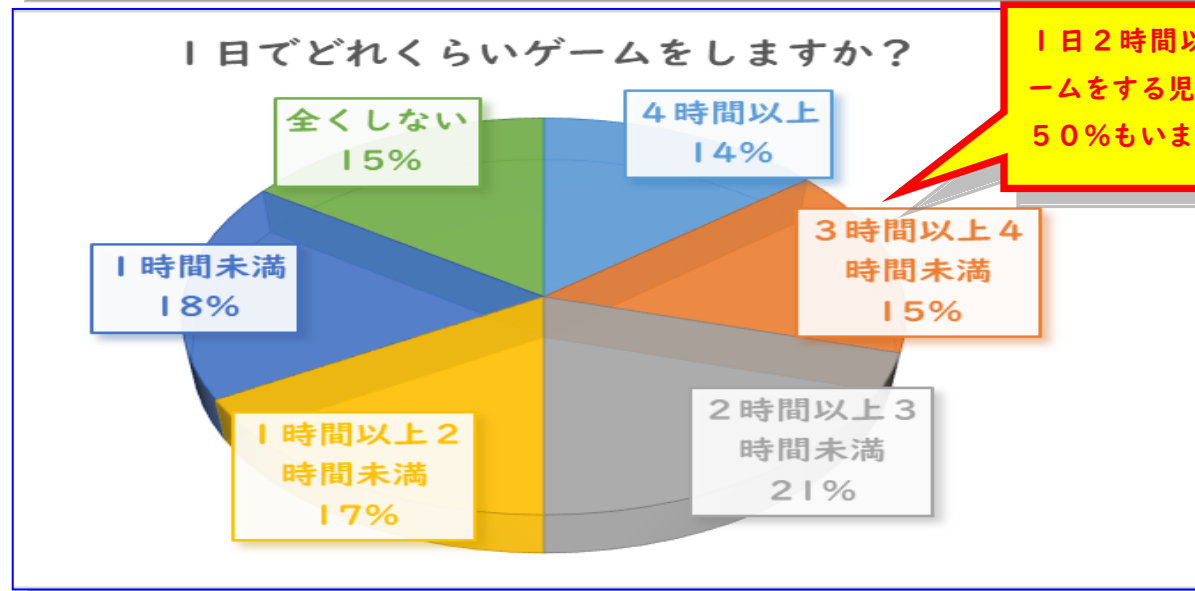
数量や図形についての簡単な知識・理解・技能を問う設問には、苦手意識を持つ子は少ないと考えられますが、数学的な思考を問う設問に対しては、苦手意識を持つ児童が多いことが分かりました。ただ、無回答率は低く、分からなくても粘り強く考え、少しでも頑張ろうと取り組む児童が多いことも分かりました。「どうしてそれを選んだのか。」「なぜそう考えたのか。」日々の授業の中で、理由を聞いたり、自分の考えを主体的・対話的に説明したりする活動を多く取り入れていきたいと考えています。また、基礎基本の定着も大切ですので、学習クラブの『iプリ』を活用し、プリントでの復習を行っております。詳しい解説は、下記ホームページを参考にしてください。

<https://www.nier.go.jp/20chousa/20chousa.htm> (参考：令和2年令和2年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料について 国立教育政策研究所 HP より)

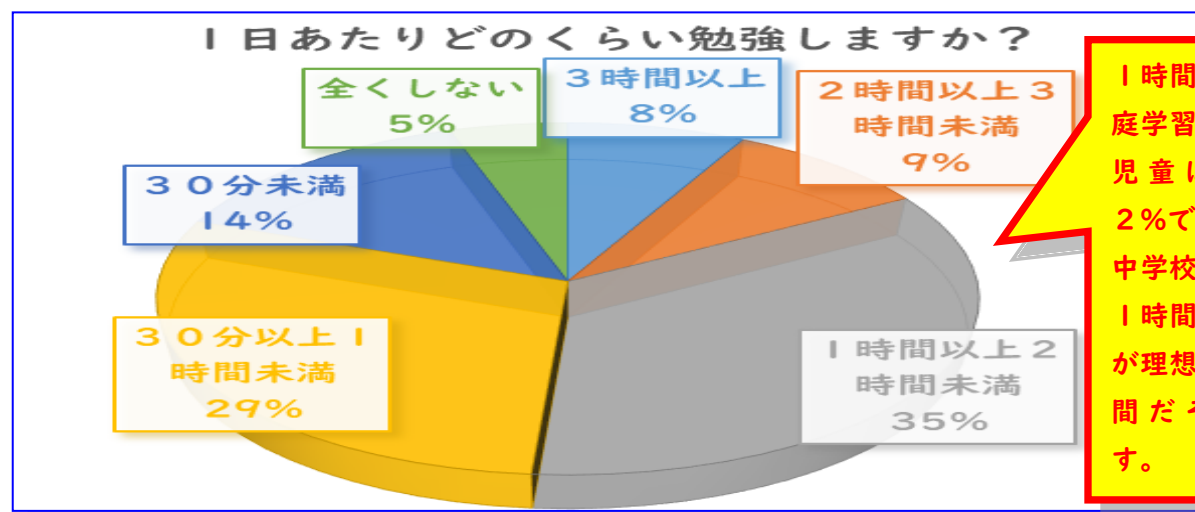
児童質問紙調査の結果



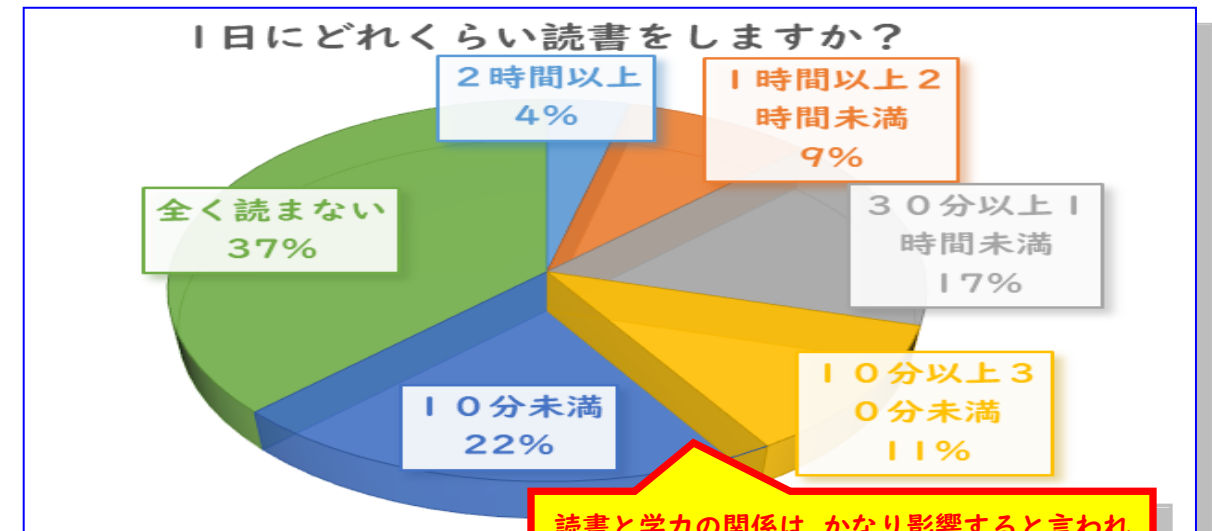
52%の児童が2時間以上テレビなどを見ています。



1日2時間以上ゲームをする児童が、50%もいます。



1時間以上家庭学習をする児童は、52%でした。中学校では、1時間×学年が理想学習時間だそうです。



読書と学力の関係は、かなり影響すると言われています。10分未満から全く読まない児童は、全体の約6割。

《今後の改善策》

質問紙では、テレビの視聴時間・ゲームの利用時間が多いのも毎年の課題です。テレビ等の視聴時間2時間以上が52%、ゲームを1日に2時間以上する子が50%いるという結果でした。読書時間が1日10分未満、全く読まない割合が約60%と読書時間も少ないです。全国的に見ても、毎年読書の大切さが言われています。本校においても、秋に読書週間を設け、読書に親しむように、子どもたちへ支援のしているところです。今年度は、コロナ禍でストップしていた読み聞かせの「どんぐりさん」に10月から全学年に来てもらっています。図書教育をより活発にしていけるよう学校でも取り組みを進めます。保護者の皆様も少しでも子どもたちが本を手にとることができるように、ご家庭でも読書環境の整備にお努めください。ご協力お願いします。

また、上記の円グラフを見て分かるように、テレビやネットで情報を得る子どもたちが多いことが予想されます。メディアによる情報化はどんどん進んでおり、新しい情報が即座に入ります。ただ、その情報が正しいかどうかを判断する前に広がっていく世の中です。ご家庭でもお子様のネット環境を確認しつつ、管理の方よろしく願いいたします。学校でも先日、全校生対象に専門講師を招いた情報モラル教育を行いました。子どもたちが教師も知らない情報をたくさん知っていることに、職員一同驚いています。子どもたちの日常に寄り添った情報推進を一層続けていく必要性を実感しているところです。

今後も、児童の気持ちに寄り添い、日々の児童の変化を直接のかかわりの中や、日記、アンケート等で早期に発見することで、お互いに心の通った教育活動を進めていけるよう全職員が丸となって取り組んでいきます。本校の教育目標である『すこやかで、創造的に生きようとする児童の育成』のためには、保護者の皆様、地域の方々の力が不可欠です。今後も若宮小学校の教育にご理解ご協力よろしく願いいたします。